

# 誰もがありのままの 自分で暮らせるように

～「性の多様性」について理解を深める～

☎ダイバーシティセンター ☎768・8034

## 性を構成する4つの要素



## 性はグラデーション

皆さんは「性」と聞くと、「体の性」をイメージするのではないのでしょうか。性別は男と女の2通りしかないと考えられがちですが、実際は100人いたら100通りのあり方があるといわれています。

性は4つの要素の組み合わせからできているという考えがあります。その組み合わせは多種多様で、グラデーションのようであると表現されます。

誰もが自分らしく暮らせるために、今号では性の多様性について考えて

## 性的少数者の分類

- L** ●レズビアン (Lesbian)  
同性を好きになる女性
- G** ●ゲイ (Gay)  
同性を好きになる男性
- B** ●バイセクシュアル (Bisexual)  
同性も異性も好きになる人
- T** ●トランスジェンダー (Transgender)  
自認する性別と出生時に割り当てられた性別が一致しない人
- Q** ●クエスチョニング (Questioning)、  
クィア (Queer)  
性的指向・性自認が定まらない人、  
性的少数者の人全て
- +** ●プラス (Plus)  
ほかにもあるさまざまな性

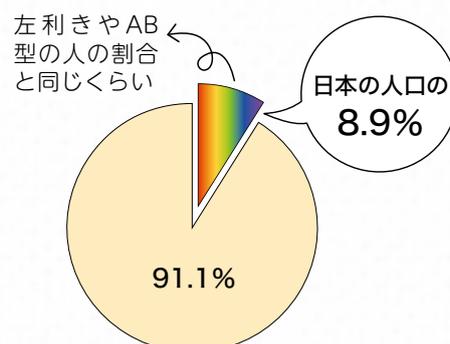
いきます。

## LGBTQ+を 知っていますか？

LGBTという言葉は知っていても、LGBTQ+という表現になると、Q(キュー)や+(プラス)とはなんだろう、と思う方も多いのではないのでしょうか。(意味は左記参照)

性の捉え方・表現の多様性は急速に進んでいる一方、周りにカミングアウトできていない人も多数います。LGBTQ+当事者は日本の人口の約8.9%という調査結果もあります。身近にいないのではなく、外見だけでは分からないため、気づいて

## LGBTQ+の割合



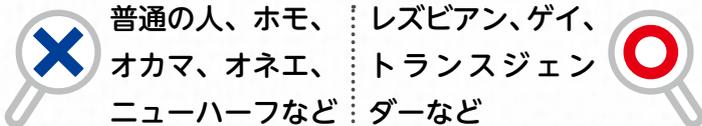
電通ダイバーシティ・ラボLGBTQ+調査2020

いないだけなのです。皆さんの知り合いにも当事者がいることを理解し、それぞれの個性を尊重することが大切です。

CHECK!

## 注意が必要な言動や行動

### 差別的な用語に気をつける



### カミングアウトとは

自身の性自認、性的指向について他の人に打ち明けることです。カミングアウトを受けた場合はあなたを信頼して話してくれている可能性が高いです。肯定的に受け止め、本人の了承なしに他人に伝えないようにしましょう。

### アウティングとは

他人の性自認や性的指向を本人の許可なく他の人に話すことです。当事者の意図しないところで個人のセクシャリティーを知られた場合、当事者は傷つき、精神的に追い込まれる可能性もあるので、注意しましょう。

## ALLY(アライ)とは?

ALLYとは英語で「味方」を表す言葉で、LGBTQ+を理解し支援する人のことです。ALLYになることは難しいことではなく、寄り添う気持ちがあれば、誰にでもなることができます。そして、身近にALLYの人がいるだけで、LGBTQ+当事者の生きやすさ、過ごしやすさは向上します。

6色のレインボーフラッグやグッズを身に着けることで、LGBTQ+を理解・支援していることを表現できます。



### 同制度手続きの流れ

step 1

人権・文化国際課へ電話(☎754・6231)またはメール(✉j-bunka@city.ikeda.osaka.jp)で**事前予約**

step 2

人権・文化国際課またはダイバーシティセンターへ**必要書類の届出**と**パートナーシップ宣誓**を実施

step 3

届出と宣誓がされたことを証明する、**宣誓証明カード**を交付

本市では、市民一人ひとりが互いに人権を尊重し、多様性を認め合い、性的マイノリティーにある人々をはじめ、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現をめざすことを目的として、同制度を実施しています。本制度は、市として自分らしく多様な生き方を応援するものです。この制度の導入により、性的マイノリティーに関する社会的理解が進み、多様性が尊重される取り組みが広がっていくことを期待しています。制度の対象要件など詳細は市ホームページをご覧ください。



市ホームページ

## 池田市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度

### 府内連携協定による継続申告について

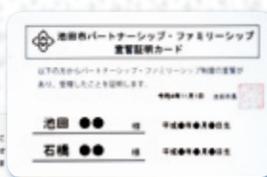
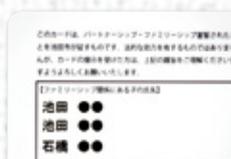
本市では、同様の制度を実施している府内各市と連携し、制度を利用していらっしゃる方の住所異動に伴う手続きの負担軽減を図っています。



府ホームページ

### 宣誓証明カード

(表面: 写真右、裏面: 写真下)





## Interview

LGBTQ + 当事者であり、  
現在教育現場や医療機関など  
さまざまな場所で講演をされている  
大久保暁さんに、  
ご自身の経験談について  
語っていただきました。

### 大久保暁さん プロフィール

1981年、女性として誕生。幼少期から赤いランドセルやスカートが苦手で、小学生のときに女の子を好きになる。20代半ばに自身がトランスジェンダーであることを自覚し、性別適合手術を受け、現在は戸籍上も男性として生活。

7年前に友人が勤めている学校で講演をしたことをきっかけに、自分の体験は人の役に立つのかもしれないと思うようになり、現在では教育現場に限らず企業・行政・消防関係・医療関係などで研修を実施。

—自身の性について違和感を感じたのはいつですか？

小学1年生の時です。赤いランドセルをもらいました。やはり嫌だったのですね。新品のランドセルをカッターのようなもので傷だらけにしてしまいました。父からかなり叱られ、泣きながら謝りました。その時の感情ははつきり覚えてはいませんが、女の子の色とされていた赤色をもらったことに抵抗があったのだと思います。

—初めて同性を好きと気づいたのはいつですか？

小学6年生の時に女の子を好きになりました。意を決して仲の良い友達に相談すると「○○ちゃんのこと好きでもいいんじゃない？」と聞いてくれたのです。否定されなかったことがうれしくなり、他の子にも話してしまいました。するとクラスでうわさが流れ始めたのです。「大久保さんって女の子やのに○○ちゃんが好きなんやって、おかしくない？ 気持ち悪くない？」と私の耳にも届きました。恋愛の気持ちに蓋をしたのがその頃でした。

—学生時代はどのように過ごしましたか？

中学・高校は女子校でした。意外に楽しいことが多かったです。共学だと性別で分けられることが多いと思います。女子校だとそれができないですよ。力作業などは運動部が任せられました。バスケットボール部だった私は積極的に頼られる存在でした。性別を意識しなくて良かったというのが大きかったと思います。

一方、修学旅行のお風呂は嫌でした。自分の体が女性になっていくことには強く拒絶があり、それを人に見られることに抵抗がありました。タオルでしっかりと体を隠して、端の方でさっとシャワーを浴び、出てきました。目のやりどころもなく、苦痛でしかなかったです。

—日常生活で困ることはありましたか？

トイレで困ることが多かったです。メンズファッションが多く、見た目は男性のような私は女子トイレに入ると「男性はこっちはじゃないですよ」と声をかけられます。男女



兼用トイレを使いたかったのですが、そこには「身障者トイレ」と書かれています。そこを必要とされている方が使うトイレですが、そこしか兼用トイレが無かったのです。仕方なくどちらを使い出してみると、車椅子の方が待つていることもあり、申し訳ない気持ちになりました。トランスジェンダーでトイレに困っていた人は、尿意を我慢して膀胱炎になるケースも多かったそうです。講演でこのような話をする、トイレはどうしているのかという質問をされます。現在は戸籍も男性となり生きていますので、堂々と男子トイレを使用しています。ただし、個室しか使用できません。

男性器を付ける手術をしているわけではないのです。性別適合手術というのは、生殖器を切除する手術のことを指します。私は子宮卵巣の摘出手術をしています。ここまですると戸籍変更の要件が満たされることになります。

### —家族にはどのように話をしましたか？

30歳が目前となり、家族にカミングアウトしました。母は「言っていることは分かったけど理解できない」と言いました。父には直接話さず、母から伝えてもらい、2人して泣いたそうです。兄は美容師をしており、知人にゲイの人がおり、理解は早かったです。「今のままではいけないのか、お母さんが守ってあげるから」そのような言葉もらい、うれしくはありましたが自分の意志とは違いました。そのうち母は自分が産んだからだと自分を責めだしました。カウンセリングを受けていた病院に一緒に行き、医師から「お母さんのせいではないんです。遺伝ではないんですよ」と伝えてもらいましたが、それでも母は自分を責めていました。

両親に報告をしながら治療を始め、手術もし、戸籍を移行しました。それを機に大阪に引っ越し、私のことを理解した上で採用してくれた企業がありました。それを両親に報告すると、「生きていけるんやね、社会に感謝しなさいね」と、ようやく安心してくれた瞬間でした。

### —市民の皆さんにメッセージをお願いします。

LGBTQ+の人は身近にいないのではなく、気づいていないだけなのです。これまでも関わっているでしょうし、接してきている

人たちです。特に何かしないといけないということはありません。特別扱いが必要ないのです。ただ、傷つけてしまう言葉があるのでそれは使わないようにしましょう。決して特別な人ではなく全ての人が多様な中に生きています。それぞれの個性を尊重できる社会にしましょう。違いがあることが当たり前であり、全ての人が一緒にだど世の中は成り立ちません。違いがあることで笑ったりいじめたりするのではなく、その人らしさを大切に、寄り添い合える皆さんであってほしいです。

#### 【講演会】

### 大久保暁さんと話そう！

大久保さんと、パートナーの希望さんをお招きし、お話を聞きます。参加者の皆さんとの意見交流会もあります。LGBTQ+



に関心のある方、当事者や家族の方、どなたでも気軽にご参加ください。

時 8月25日(金)午後2時～4時 場 ダイバーシティセンター 定 30人 申 7月4日(火)から電話で同センター

#### 【展 示】

### 「LGBTQ+」って何？

時 8月1日(火)～31日(木) 場 ツナガリエ石橋1階ロビー

問 ダイバーシティセンター ☎768・8034